

高校生が主役の地域での学び

～学校を核にした社会教育による地域づくり～

新潟県新潟市社会教育委員 角野 仁美

1 はじめに

新潟市は、面積 726.46 平方 km、人口約 79 万人の 8 区からなる政令指定都市であり、東京から北北西約 250km、上越新幹線で約 2 時間の位置にあります。日本海、信濃・阿賀野の両大河、福島潟、鳥屋野潟、ラムサール条約登録湿地である佐潟など、多くの水辺空間と自然に恵まれ、コハクチョウの越冬数は日本一を誇ります。

本市は、平成 18 年度に「新潟市教育ビジョン 基本構想・基本計画」（以下、教育ビジョン）を策定しました。教育ビジョンでは「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」を合言葉に、次代の新潟を支え、世界に羽ばたく心豊かな子どもを育み、市民が学び育つ社会づくりのための、教育の方向性とあり方を明確にしています。

令和 2 年度から令和 6 年度までの第 4 期実施計画では、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を中心的な考え方のテーマにし、5 つの視点から重点的な取組を行います。5 つの視点の一つには「学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます」が据えられ、基本施策「人生 100 年時代を見据えた循環型生涯学習の推進」の中で、学習成果を生かす活動への支援を重点的に推進するため、「地域活動を担う人材の育成」に力を入れています。

若者の地域離れや地域の担い手不足などが全国的な課題となる中、本市公民館では「コミュニティ・コーディネーター養成講座」を開催し、地域活動の実践者育成に取り組んでいます。同講座は平成 23 年度に 2 つの区でのモデル実施を経て、翌 24 年度からは市内 8 区で実施することとなりました。以降、各区それぞれが地域の課題にあわせて、講座を通して地域課題解決に向けた地域人材の育成に取り組んでおり、現在までに延 1,831 人が受講されています。

講座の内容は各区様々ですが、新潟市南区の白根地区公民館が平成 29 年度から取り組んでいる、高校生を対象にした講座の内容についてご紹介いたします。

2 活動の内容

地域活動の担い手の若返りを図るために、区唯一の高校・白根高等学校の生徒を対象に、地域課題に向き合い、考え、行動を起こせる若者を育成することを目的に、平成 29 年度より「南区コミュニティ・コーディネーター養成講座～若者編～」として、事業がスタートしました。コミュニティ・コーディネーターとは「地域の課題に気づき、困っている人や地域課題に対して取り組む人材・団体・住民・行政・地域等のつなぎ役として、課題解決へ導ける（コーディネートする）人」と定義しています。白根高校生がコミュニテ

ィ・コーディネーターとしての役割を学び、体験することによって、自己のスキルアップを目指すとともに、未来の自分が地域にどのように関わり、何ができるかを考えるきっかけをつくること、また地域としても高校生のアイデアを吸収することによる地域課題解決に向けた取り組みの足掛けとなることが、事業の目標に据えられています。

【概要】

日時：年間10回程度の講座＋地域ホールでの発表会

会場：白根高等学校

対象：有志の白根高校生 10～15名程度

主催：白根地区公民館 協力：地域コミュニティ協議会、テーマ毎の関係者

【主な活動内容】

<2017年度>

日本三大絞りの1つであり、新潟市無形文化財に指定されている「しろね絞り」の価値をどのようにPRしていけばよいか？をテーマに、高校生がしろね絞りを学び、発信のための企画を考えました。その後、しろね絞りに限らず、白根地区にある資源を更にPRすべく新たなお土産を考案。南区主催の「南区お土産アイデアコンテスト」にて提案し、見事アイデア部門の特別賞を受賞しました。

<https://www.city.niigata.lg.jp/minami/sonota/omiyagekon.html>



お土産アイデアのブレインストーミング 最終発表会で、学習成果をプレゼンテーション

<2018年度>

地域コミュニティ協議会からの地域課題（ミッション）に対し、講座を通して解決策を考え、実行するという取り組みを行いました。具体的には、大通コミュニティ協議会からの「大通地区のシルバー世代の住民が、自ら困りごとを発信しやすくなるよう、地域住民同士のコミュニケーションを深めたい。その方法を考える。」というミッションを受け、計12回の活動を通して、地域の現状を学び（ヒアリング等の情報収集含め）、考え、意見を出し合いました。その中で、自分たちがシルバー世代の方々へ「LINE講座」を行うというアイデアにまとまり、寸劇を交えながら地域に発表しました。その後、生徒主体で企画・

運営を行い、企業（NTT docomo）と連携したLINE 講座を実施。募集定員 16 名の講座は、60～80 代の 28 名もの応募があり、地域から寄せられた関心の高さが伺えました。

【活動の詳細】 みらいず works <https://miraisworks.com/4025/>



寸劇を交えながらアイデアを地域に発表



高校生主催のスマホ「LINE 講座」

<2019年度>

庄瀬地区コミュニティ協議会より「庄瀬地区の住民が、防災に対する意識を高めるためにはどうしたらよいか。そのためのアイデアを考える」というミッションを受け、全10回の講座を通してアイデアを考え、提案しました。

■第1回：オリエンテーション

- *コミュニティ・コーディネーターとは？
- *ミッション発表
- *庄瀬地区を学ぼう（コミュニティ協議会会長より、地域の概要や課題意識について共有）
- *チームビルディング、チーム分け

■第2回：スキル練習と準備

- *ファシリテーションスキルのレクチャー
- *インタビュー練習
- *地域の人への質問づくり、ブレスト

■第3回：地区住民との交流とヒアリング

- *白根高校より庄瀬地域生活センターへ移動
- *グループごとに座談会（質問を元に意見交換）

白根地区公民館

コミュニティ・コーディネーター育成講座

#1 受講生募集の巻

① 12月12日(木) 15:50～17:20 初回講座、地域を学ぶ
 ② 12月19日(木) 15:50～17:20 スキルの習得
 ③ 12月26日(日) 16:00～17:30 地域に学ぶ
 ④ 1月9日(木) 15:50～17:20 アイデアを考える
 ⑤ 1月16日(木) 15:50～17:20 アイデア発表会に向けて
 ⑥ 2月10日(月) 16:00～17:30 アイデア発表会 (全6回連続講座)

対象：白根高校生1～2年生 12～16名程度
 会場：白根高校、白根学芸館など
 講師：NPO法人みらいずworks

求ム!! 受講生!!

講座メンバーの募集チラシ（白根高校に配布）

■第4回：アイデア出し

- *レクチャー「アイデア発想のヒント」
- *グループでアイデア出し→プレゼンし相互評価
- *アイデアの絞り込み

■第5～9回：プレゼン準備・練習

- *アイデアのまとめ・発表会に向けたプレゼン準備（寸劇の練習含む）

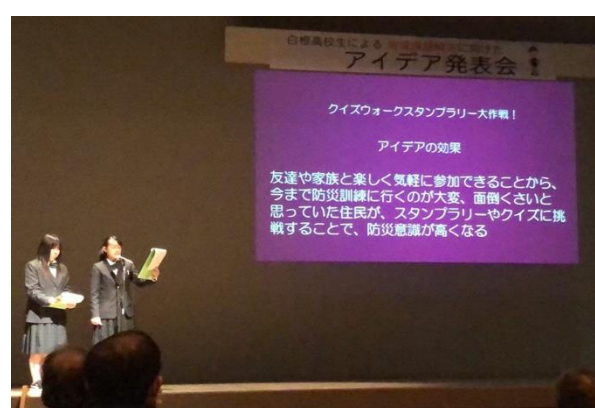
■第10回：アイデア発表会



講座の参加メンバー



地区住民や一般市民を招いた発表会



3つの班それぞれがアイデアを披露した

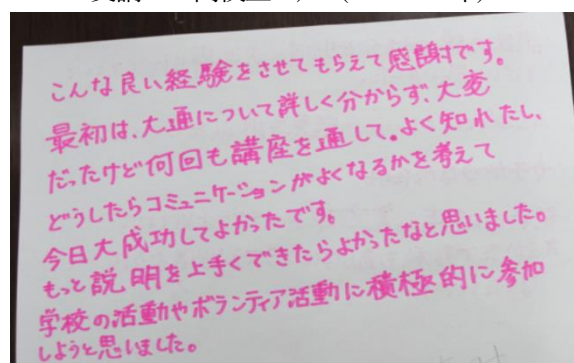
※発表されたアイデアは、次年度にコミュニティ協議会を中心に実現していく方向性であったが、新型コロナウイルスの影響で実施が延期されています。

3 成果と課題

【2019年 受講生徒の声】

- 改めて震災のことについて学べたのと、コミュニケーション能力なども勉強でき、とても充実した。
- 様々な方と触れ合って、本来知る事の出来ない事をたくさん知り、学び、それを活かしてアイデアを考える事で、様々なスキルを身につけることが出来ました。
- 昨年より講座が楽しく、一年生が積極的に動いてくれてやりやすかったです。終わった後「よかった」と言ってもらって、参加してよかったと思えた。来年も参加します。

受講した高校生の声（2018年）



【2019年 地域の声】

- ・町内の皆さんの士気を高めるのに大きなヒントになりました。早速、皆さんのアイデアを取り入れたいと思います。
- ・高校生に庄瀬のために時間を使ってくれてありがとうございました。これからも南区のため、自分のためにどんどん活動してほしいです。
- ・とても面白かったです。期待以上でした！ただ、アイデアを出すだけでなく、課題や効果、シミュレーション（寸劇）まで丁寧に考えていただき、大変うれしく思います。今後の訓練に活用させて頂きたいです。高校生の皆さん、態度も立派でした。

成果として、高校生が地域コミュニティと密に関わり行動する経験を通して、地域から感謝される・地域に影響を及ぼしているという「成功体験」を積み、地域への関心や自己肯定感が高まっていることが挙げられます。受講生はリピーターが多く、上級生が下級生をフォローしながら活動を進める姿も見られました。活動の担い手不足を感じている、また地域課題に向けたアクションのヒントを求めている地域側も、高校生との活動が、地域づくりの新たな一歩になっています。

課題としては、高校生が提案した「活動の継続性・発展性」が挙げられます。高校生は年度ごとに活動メンバーが入れ替わります。高校生主体の活動やそのアイデア・やる気・想いを誰がどのようにサポートし続けるのか、地域と学校の協働体制をしっかりと整えていくことが必要です。

4 今後の展望（まとめ）

白根高等学校では、2020年よりスタートする「総合的な探究の時間」という教科を切り口に、生徒と地域とが密に関わり、学ぶ活動を展開しています。授業ですので、全ての生徒が地域と関わりますが、もう一步地域に深く関わりたい、自分の力を伸ばしたい、何か自分らしくチャレンジしたいと感じた生徒の受け皿として、今回ご紹介したような、高校生を対象とした社会教育の学びの機会があることは、大切だと実感しています。そのような意味で、学校教育と社会教育が連動・連携して、高校生主体の学びを深化させつつ、地域づくりを進める仕掛けを今後も考えていきたいです。

